

シラバス

指定番号 306

商号又は名称： 寝屋川市

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	○研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスの理解	2.0	2.0	0.0	〈講義内容〉 ・介護保険による居宅サービス ・介護保険による居宅サービスの種類と、サービスが提供される場の特性を理解する ・介護保険による施設サービス ・介護保険による施設サービスの種類と、サービスが提供される場の特性を理解する ・介護保険外のサービス ・介護保険外のサービスの種類と、サービスが提供される意義や目的を理解する 〈演習内容〉 ・介護職員として、どのように働きたいのか、介護に抱く思いやこれから目指す介護職員についてグループで話し合い、これからの研修の方向性について認識を深める
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	4.0	4.0	0.0	〈講義内容〉 ・介護サービスを展開する現場の実際 ・各種サービスの内容や利用者像などを通じて、介護職の仕事内容や働く現場を理解する ・介護サービスの提供にいたるまでの流れ ・ケアマネジメントを通じて、介護サービス提供にいたるまでの流れを理解する ・介護過程とチームアプローチ ・チームアプローチの必要性と、具体的な連携方法を理解する 〈演習内容〉 ・グループワークを行い介護職が働く現場や仕事の内容、サービス提供現場の具体的なイメージをする ・受講生の介護体験を紹介し合い、互いの介護観に対する理解を深める ・介護職員として、どのように働きたいのか、介護に抱く思いや目指す介護職員について話し合い、これからの研修の方向性について認識を深める
(合計時間数)	6.0	6.0	0.0	

使用する機器・備品等	ホワイトボード
------------	---------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 306
商号又は名称： 寝屋川市

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	○介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解する			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	6.0	2.0	4.0	〈講義内容〉〈通信学習課題の内容〉 ・人権と尊厳の保持 ・介護を必要とする人が有する権利とは何かを学ぶ ・ I C F ・ Q O L ・ ノーマライゼーション ・介護に関する基本的な視点（ I C F, Q O L, ノーマライゼーション）について理解する ・虐待防止・身体拘束禁止 ・利用者の権利を擁護するための制度の種類や内容について理解する 〈演習内容〉 ・「身体拘束事例」について班体制を用いて、グループディスカッション
② 自立に向けた介護	3.0	2.0	1.0	〈講義内容〉〈通信学習課題の内容〉 ・自立支援 ・介護における自立とは何かを学ぶ ・「その人らしさ」を尊重するために、介護職として配慮すべき点について理解する ・介護予防 ・介護の予防の考え方について理解する 〈演習内容〉 ・「過剰介護」について班体制を用いて、グループディスカッション
③ 人権啓発に係る基礎知識	2.0	2.0	0.0	〈講義内容〉 ・人権及び人権問題に関する理解 ・個人の権利を守る制度の概要 ・個人情報保護法 ○成年後見制度 ・日常生活自立支援事業 ・生活保護 ・人権及び人権問題に関する正しい理解を深め、主体的な思考力、判断力を養い、多様な人権問題の解決に主体的に取り組む責任を自覚し、豊かな人権感覚を身につける 〈演習内容〉 ・「身の回りの人権問題」について班体制を用いて、グループディスカッション
(合計時間数)	11.0	6.0	5.0	

使用する機器・備品等	ホワイトボード
------------	---------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 306

商号又は名称： 寝屋川市

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	○介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する ○介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援をとらえることができる			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2.0	0.5	1.5	〈講義内容〉〈通信学習課題の内容〉 ・介護環境の特徴 ・介護環境の特徴（施設と在宅との違い、地域包括ケアの方向性など）を学ぶ ・介護の専門性 ・介護の専門性について考え、専門職に求められるものが何かを学ぶ ・介護にかかわる職種 多職種連携の目的を学び、利用者を支援するさまざまな専門職について理解する 〈演習内容〉 ・介護に関わる職種を挙げ、多職種との連携が必要な理由を話し合い各専門職との連携について理解する
② 介護職の職業倫理	1.0	0.5	0.5	〈講義内容〉〈通信学習課題の内容〉 ・専門職の倫理の意義 ・介護職がもつべき職業倫理を学ぶ ・介護福祉士の倫理 ・日本介護福祉士会倫理綱領を参考に介護職にかかわる倫理綱領を理解する 〈演習内容〉 ・職業倫理に関わる講師の体験例を紹介した後に、それぞれの体験による倫理観の変化について振り返り、考察する
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5	1.0	0.5	〈講義内容〉〈通信学習課題の内容〉 ・介護における安全の確保 ・利用者の生活を守る技術としてのリスクマネジメントの視点を学ぶ ・事故予防、安全対策 ・感染対策 ・利用者を取り巻く介護チームで安全な生活を守るしくみについて学ぶ 〈演習内容〉 ・事故を未然に防ぐための方法や事故はなぜ起こるのか事故の要因を考え、危険予知、危険予測について理解する
④ 介護職の安全	1.5	1.0	0.5	〈講義内容〉〈通信学習課題の内容〉 ・介護職の心身の健康管理 ・介護の特徴をふまえて、介護職自身の健康管理の必要性について学ぶ ・介護職に起こりやすいところとからだの病気や障害について学ぶ ・感染予防 ・介護職自身の健康管理の方法（病気や障害の予防と対策）について学ぶ 〈演習内容〉 ・感染症対策を踏まえ、手袋・マスク・エプロンの着脱方法を演習する

(合計時間数)	6.0	3.0	3.0	
---------	-----	-----	-----	--

使用する機器・備品等	ホワイトボード
------------	---------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 306

商号又は名称： 寝屋川市

科目番号・科目名		(4) 介護・福祉サービスの理解と医療との連携		
指導目標		○介護保険制度や障がい福祉制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的, サービス利用の流れ, 各専門職の役割・責務について, その概要のポイントを習得する		
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護保険制度	4.0	0.5	3.5	〈講義内容〉〈通信学習課題の内容〉 ・介護保険制度創設の背景および目的, 動向 ・介護保険制度が創設された背景を理解したうえで制度の目的と動向について学ぶ ・介護保険制度のしくみの基礎的理解 ・介護保険制度の基本的なしくみを理解する ・制度を支える財源, 組織・団体の機能と役割 ・介護保険制度にかかわる組織とその役割を理解するとともに, 制度の財政について学ぶ 〈演習内容〉 ・制度に関わる基本的な用語について, 練習問題を解いて知識の確認をする
② 医療との連携と リハビリテーション	2.0	0.5	1.5	〈講義内容〉〈通信学習課題の内容〉 ・医療行為と介護 ・介護職と医療行為の実情と経過について理解する ・訪問看護 ・施設における看護と介護の役割・連携 ・在宅および施設における介護職と看護職の役割・連携について理解する ・リハビリテーション ・リハビリテーションの理念と考え方について理解する 〈演習内容〉 ・医療行為を行ってはいけない理由を考え, 医療行為と医療行為ではないものについて理解を深める
③ 障がい者福祉制度および その他制度	3.0	0.5	2.5	〈講義内容〉〈通信学習課題の内容〉 ・障がい者福祉制度の概念 ・障がい者福祉制度における障害の概念について, その歩みをふまえて学ぶ ・障がい者福祉制度のしくみの基礎的理解 ・障がい者福祉制度の基本的なしくみについて理解する ・個人の人権を守る制度の概要 〈演習内容〉 ・高齢者や障害者を支える制度にはどのようなものがあるか理解する
(合計時間数)	9.0	1.5	7.5	

使用する機器・備品等	ホワイトボード
------------	---------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 306

商号又は名称： 寝屋川市

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	○高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを図ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の とるべき（とるべきでない）行動例を理解する			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護における コミュニケーション	4.0	1.5	2.5	〈講義内容〉〈通信学習課題の内容〉 ・コミュニケーションの意義、目的、役割 ・対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的を理解する ・コミュニケーションの技法 ・介護におけるコミュニケーションの役割と技法について理解する ・利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 ・事例を通して、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際を理解する 〈演習内容〉 ・「非言語コミュニケーション」を用いた伝言ゲームを行う ・受容・共感・傾聴などのロールプレイを行うことで利用者の思いを知る
② 介護における チームのコミュニケーション	2.0	1.5	0.5	〈講義内容〉〈通信学習課題の内容〉 ・記録における情報の共有化 ・介護における記録の意義と目的を理解し、書き方の留意点などについて学ぶ ・報告・連絡・相談 ・チームのコミュニケーションに必要な報告・連絡・相談の意義と目的を理解し、具体的な方法について学ぶ ・コミュニケーションをうながす環境 ・会議の意義と目的を理解し、具体的な進め方について学ぶ 〈演習内容〉 ・介護記録を記入して、情報の共有化を学習する ・報告・連絡・相談を行う目的の理解を図る
(合計時間数)	6.0	3.0	3.0	

使用する機器・備品等	ホワイトボード
------------	---------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 306

商号又は名称： 寝屋川市

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	○加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①老化に伴うところとからだの変化と日常	3.0	1.5	1.5	〈講義内容〉〈通信学習課題の内容〉 ・老年期の定義 ・老年期や高齢者の定義について理解する ・老年期の発達と老化にともなう心身の変化の特徴 ・老化が影響を及ぼす心理や行動には個人差が大きいことについて理解する ・老化とともに社会的環境が心理や行動に与える影響について理解する ・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ・多くの側面にわたる身体的老化現象と日常生活への影響について理解する 〈演習内容〉 ・「老年期の喪失体験」についてグループディスカッションする
②高齢者と健康	3.0	1.5	1.5	〈講義内容〉〈通信学習課題の内容〉 ・高齢者の症状・疾患の特徴 ・高齢者の多くにみられる症状や訴えがどのような疾病から起こるかなど、その特徴について理解する ・高齢者の疾病と日常生活上の留意点 ・高齢者に多い病気と日常生活上の留意点 ・高齢者に多い病気の原因や特徴、その病気をかかえる高齢者の生活上の留意点について理解する 〈演習内容〉 ・健康状態の変化にどのようにすれば気づけるか、どのような観察視点が必要か検討し、日常生活上の留意点を理解する
(合計時間数)	6.0	3.0	3.0	

使用する機器・備品等	ホワイトボード
------------	---------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 306

商号又は名称： 寝屋川市

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	○介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解する			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 認知症を取り巻く状況	1.0	0.5	0.5	〈講義内容〉〈通信学習課題の内容〉 - 認知症のケアの理念 「認知症を中心としたケア」から、「その人を中心としたケア」に転換することの意義を理解する - 認知症ケアの視点 - 問題視するのではなく、人として接することを理解する - できないことではなく、できることをみて支援することを理解する 〈演習内容〉 事例を用いたグループワーク
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2.0	1.0	1.0	〈講義内容〉〈通信学習課題の内容〉 - 認知症とは - 老化のしくみと脳の変化を学び、認知症の原因を理解する - 認知症の診断 - 認知症に類似した症状をもつ疾病について学ぶ - 認知症の原因疾患とその病態 - アルツハイマー型認知症、血管性認知症をはじめとした認知症のおもな原因疾患の病態、症状について学ぶ - 認知症の治療と予防 〈演習内容〉 「なぜその症状が出るのか」を脳のメカニズム（病態）と結びつけて理解する
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2.0	1.0	1.0	〈講義内容〉〈通信学習課題の内容〉 - 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 - 認知症の症状を知ることによって、どのようなケアが必要かを学ぶ - 認知症の人への対応 - 認知症の人の行動と環境との関係について理解する - 病気の症状があっても、その人の尊厳を守る視点をもつことについて理解する 〈演習内容〉 - 具体例を用いたケーススタディ - 事例をもとに認知症への対応方法をグループで検討する - 認知症のある利用者とケアする側に分かれ、心理状況に合わせた援助方法を講師指導のもと、ロールプレイングを行う
④ 家族への支援	1.0	0.5	0.5	〈講義内容〉〈通信学習課題の内容〉 - 家族への支援 - 家族介護者の介護の大変さについて理解し、レスパイトの重要性を学ぶ - 認知症の人を介護する家族へのレスパイトケア - 家族とは助けるだけの存在ではなく、ともに認知症の人を支えていくパートナーであることを学ぶ 〈演習内容〉 - 障がいの受容のプロセスと基本的な介護の考え方についてグループワークを行う
(合計時間数)	6.0	3.0	3.0	

使用する機器・備品等	ホワイトボード
------------	---------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 306

商号又は名称： 寝屋川市

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	○障がいの概念と I C F, 障がい福祉の基本的な考え方について理解し, 介護における基本的な考え方について理解する			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 障がいの基礎的理解	0.5	0.5	0.0	〈講義内容〉 ・障がいの概念と I C F ・「障がいとはどういうものなのか」という考え方を学ぶ ・国際生活機能分類 (I C F) にもとづきながら, 「障がい」の概念について理解する ・障がい者福祉の基本理念 ・障がい者福祉の基本理念 (ノーマライゼーション, リハビリテーション, インクルージョン) について理解する 〈演習内容〉 ・自分が障がいを負った際にどのように受け止め, どのような生活を送りたいのかグループワークを行い, 障がいのある方に対して関わる際の視点を理解する
② 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	2.0	0.5	1.5	〈講義内容〉〈通信学習課題の内容〉 ・身体障がい ・知的障がい ・精神障がい ・発達障がい ・難病 ・障がいの原因となるおもな疾患を理解する ・障がいにもなう心理的影響, 障害の受容を理解する ・障がいのある人の生活を理解し, 介護上の留意点について学ぶ 〈演習内容〉 ・それぞれの特性を体感的に理解する
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	0.5	0.5	0.0	〈講義内容〉 ・家族の理解と障がいの受容支援 ・家族支援は, 家族介護の肩代わり支援だけではないことを学ぶ ・介護負担の軽減 ・日本に求められるレスパイトサービスの課題を学ぶ 〈演習内容〉 ・障がいの受容のプロセスと基本的な介護の考え方についてグループワークを行う ・事例をもとに, 家族との関わりについてグループごとで討議を行う
(合計時間数)	3.0	1.5	1.5	

使用する機器・備品等	ホワイトボード
------------	---------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 306

商号又は名称： 寝屋川市

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	○介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる ○尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学 習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護の基本的な考え方	3.0	3.0	0.0	〈講義内容〉 ・理論にもとづく介護 ・「介護」が理論的にどのような変遷をたどってきたのかについて理解する ・法的根拠にもとづく介護 ・「介護」が法的にどのような変遷をたどってきたのかについて理解する 〈演習内容〉 ・求められる介護者像をグループディスカッションする
② 介護に関する こころのしくみの基礎的理解	4.0	3.0	1.0	〈講義内容〉〈通信学習課題の内容〉 ・学習と記憶に関する基礎知識 ・学習と記憶に関する基礎的な知識を理解する ・感情と意欲に関する基礎知識 ・感情と意欲に関する基礎的な知識を理解する ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ・自己概念と生きがい、老化や障害の受容に関する基礎知識を理解する 〈演習内容〉 ・高齢者の生きがいとは何か、家庭や地域社会における支援の在り方についてグループディスカッションする
③ 介護に関する からだのしくみの基礎的理解	5.0	3.0	2.0	〈講義内容〉〈通信学習課題の内容〉 ・生命の維持・恒常のしくみ ・生命の維持・恒常のしくみを理解する ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用 ・骨や関節など、からだの動きのメカニズムを理解する ・中枢神経と体性神経に関する基礎知識 ・神経の種類と、そのはたらきを理解する ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 ・眼や耳、心臓をはじめとするからだの器官のはたらきを理解する 〈演習内容〉 ・ボディメカニクスの基本知識について実技を交えて説明
④ 生活と家事	5.0	3.0	2.0	〈講義内容〉〈通信学習課題の内容〉 ・生活と家事の理解 ・生活を継続していくための家事の重要性について学ぶ。 ・家事援助（調理、洗濯、掃除などの援助）は利用者にとってどのような意味があるのかを理解する ・家事援助に関する基礎知識と生活支援 ・家事援助とは何かについて具体的に理解する

				〈演習実施方法〉 ・「時代背景と生活様式・習慣、価値観」について班体制を用いてグループディスカッション
⑤ 快適な居住環境整備と介護	4.0	3.0	1.0	〈講義内容〉〈通信学習課題の内容〉 ・快適な居住環境に関する基礎知識 ・安心して快適に生活するために必要な環境の整備とは何かについて学ぶ ・住まいにおける安心・快適な室内環境の確保の仕方について学ぶ ・高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具の活用 ・高齢者や障がいのある人が生活するなかで、住宅改修や福祉用具を利用する意味や視点を学ぶ 〈演習内容〉 ・「居住環境のバリアフリー化」についてグループディスカッションをする
⑥ 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.0	6.0	0.0	〈講義内容〉 ・整容に関する基礎知識 ・整容の必要性和、整容に関連するところとからだのしくみを理解する ・整容の支援技術 ・利用者本人の力を活用し、整容の介護を行うための技術を身につける 〈演習内容〉 ・衣服の着脱、洗面場面の援助技術について実技形式で実施
⑦ 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	9.0	6.0	3.0	〈講義内容〉〈通信学習課題の内容〉 ・移動・移乗に関する基礎知識 ・移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法 ・移動・移乗の必要性和、移動・移乗に関連するところとからだのしくみを理解する ・利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援 ・利用者本人の力を活用し、移動・移乗の介護を行うための技術を身につける ・移動・移乗を阻害する要因の理解とその支援方法 ・心身機能の低下が移動・移乗に及ぼす影響について理解する ・移動と社会参加の留意点と支援 〈演習内容〉 ・「ベッド周りでの移動・移乗援助技術」「車椅子の操作方法（屋内外）」「視覚障がい者の付き添い援助技術（屋内外）」「ベッドでの体位交換方法」について実技形式で実施
⑧ 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.0	6.0	0.0	〈講義内容〉 ・食事に関する基礎知識 ・食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法 ・食事の必要性和、食事に関連するところとからだのしくみを理解する ・楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 ・利用者本人の力を活用し、食事の介護を行うための技術を身につける ・食事と社会参加の留意点と支援 ・心身機能の低下が食事に及ぼす影響について理解する 〈演習内容〉 ・様々な食事形態を用いた食事介助や飲水介助、とろみのつけ方、調理・食器の工夫、介護用品を用いた食事姿勢の保持について実技形式で実施
⑨ 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8.0	6.0	2.0	〈講義内容〉〈通信学習課題の内容〉 ・入浴・清潔保持に関連する基礎知識 ・入浴・清潔保持がもたらす心身への効果と、入浴に関連するところとからだのしくみを理解する ・入浴・清潔保持に関連する用具の活用方法 ・利用者本人の力をいかに、楽しい入浴の介護を行うための技術を身につける ・楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 ・心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響について

				理解する 〈演習内容〉 ・ベッド上での清拭介助，足浴・手浴の介助，入浴介助について実技形式で実施
⑩ 排泄に関連した こころとからだのしくみと 自立に向けた介護	6.0	6.0	0.0	〈講義内容〉 ・排泄に関する基礎知識 ・排泄の必要性と，排泄に関連するこころとからだのしくみを理解する ・排泄環境の整備と関連する用具の活用方法 ・利用者本人の力を活用し，気持ちのよい排泄の介護を行うための技術を身につける ・爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法 ・心身機能の低下が排泄に及ぼす影響について理解する 〈演習内容〉 ・ベッド上での排泄介助，トイレ・ポータブルトイレの介助，尿瓶を用いた介助，腹部のマッサージの仕方について実技形式で実施
⑪ 睡眠に関連した こころとからだのしくみと 自立に向けた介護	6.0	6.0	0.0	〈講義内容〉 ・睡眠に関する基礎知識 ・睡眠の必要性と，睡眠に関するこころとからだのしくみを理解する ・睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法 ・心地よい睡眠を支援するための知識と技術を身につける ・快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法 ・心身機能の低下が睡眠に及ぼす影響について理解する 〈演習内容〉 ・安楽姿勢について，介護用品の使い方を交え実技形式で実施
⑫ 死にゆく人に関連した こころとからだのしくみと 終末期介護	3.0	2.0	1.0	〈講義内容〉〈通信学習課題の内容〉 ・終末期に関する基礎知識 ・終末期のとらえ方を学ぶ ・生から死への過程 ・終末期から死までの身体機能の変化について理解し，状況に合わせた対応を学ぶ ・「死」に向き合うこころの理解 ・苦痛の少ない死への支援 ・死に直面したときの人の心理状況について理解し，こころの変化の受け止め方を学ぶ 〈演習内容〉 ・エンゼルケアについて，エンゼルケア用品の使い方を交え実技形式で実施
⑬ 介護過程の基礎的理解	4.0	4.0	0.0	〈講義内容〉 ・介護過程の目的と意義について理解する ・介護過程の展開プロセスについて理解する ・チームアプローチにおける介護職の役割と専門性について理解する 〈演習内容〉 ・具体事例について，班体制を用いケーススタディ
⑭ 総合生活支援技術演習	6.0	6.0	0.0	〈講義内容〉 ・事例を通じて，利用者のこころとからだの力が発揮できない要因を分析する ・事例を通じて，利用者本人にとって適切な支援技術は何かを検討する ・事例を通じて，利用者の心身状況に合わせた介護を提供する視点について理解する 〈演習内容〉 ・講義内容についてグループに分かれグループディスカッションを行う ・高齢分野から「片麻痺」事例と「認知症」事例について事例検討し，それぞれ事例について排泄介助場面，衣服の着脱介助場面，食事介助場面を実践形式で行い，その技術習得度を評価する
授業時間合計	75.0	63.0	12.0	

使用する機器・備品等	ベッド 車椅子 ポータブルトイレ 簡易浴槽
------------	-----------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 306
商号又は名称： 寝屋川市

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	介護職として就労した後のキャリア形成についてイメージできる			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 振り返り	2.0	2.0	0.0	〈講義内容〉 ・研修を通して学んだこと、今後継続して現場で学ぶべき こと、根拠に基づく介護についての要点について
② 就業への備えと研修修了 後における継続的な研修	2.0	2.0	0.0	〈講義内容〉 ・研修終了後どのようなスキルアップを目指したいか考え、 具体的なスキルアップの例等、講師の経験談を通し、 意欲向上を図る
(合計時間数)	4.0	4.0	0.0	

使用する機器・備品等	ホワイトボード
------------	---------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。